



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

こんな経験ないですか？  
認知症に揺れる社会

「最近おじいさんが時々道に迷って家に帰れんようになった」

「近所の人が家に入っ  
てものを盗むと騒ぐ」

「さつき昼ご飯を食べ  
たのに昼食はまだか  
という」「お風呂に入  
るのをいやがるよう  
になった」など…。

このような症状が  
あると皆さんは認知  
症だろうか心配さ  
れるのではないで  
しょうか。いま、認  
知症は世界中で大問  
題となっています。

医療が進歩し、平均  
寿命が長くなつてみ  
んなが幸せかと思  
いきや、認知症とい

問題が浮かび上がっ  
てきました。

認知症とは。

原因や治療・予防法  
はあるのか

認知症の70%はア  
ルツハイマー型認知  
症（アルツハイマー  
病）です。アルツハ  
イマー病の原因は脳  
の神経細胞にアミロ  
イドβというたんぱ  
く質が蓄積し、神経  
細胞が死滅するため  
と考えられています  
が、なぜこのような  
物質が作られ、蓄積  
するのか分かってい  
ません。しかし、生  
活習慣病（例えば、  
糖尿病、高血圧、喫煙、  
飲酒）が悪化因子で  
あることは疫学的に  
証明されています。

現在のところ、確  
実なアルツハイマー  
病の治療薬や予防薬  
はありません。進行  
するスピードを遅く  
したり、症状を減ら  
したりする薬は開発  
されています。アル  
ツハイマー病の治療

薬を作ればノーベル  
賞は確実です。で世  
界中の製薬会社、科  
学者が研究していま  
す。

認知症社会にどう立  
ち向かう？研究が進  
む認知症対策最前線

今、確実な治療法  
はありませんが、ア  
ルツハイマー病にな  
らないようにするさ  
まざま対策も報告さ  
れています。すでに  
述べた悪化因子を減  
らすこと、有酸素運  
動や音楽療法、社会  
参加などなど。しか  
し、何の症状もなく  
これらを一生懸命す  
るのはなかなか難し  
いものです。

アルツハイマー病  
の患者さんでは、脳  
の海馬傍回という  
部位の萎縮が最も  
早く起こります。最  
近、脳MRIを撮影  
し、この萎縮を早期  
に検出できる方法V  
SRADが考案され  
ました。しかし、ま  
だ新しい検査法なの

で、この方法だけで  
アルツハイマー病を  
確定診断することは  
できませんが、症状  
が出る前にアルツハ  
イマー病を疑うこと  
ができるので、早期  
に予防を開始できる  
可能性があります。

予防対策は早いほど  
有効であることが分  
かっています。また、  
現在、進行を遅らせ  
る治療薬を予防薬と  
して使用する研究も  
進んでいます。

日野病院でも脳ドッ  
クで認知症検査が可  
能に。ぜひ一度受診を

ここで、少し日野  
病院の宣伝です。日

野病院でもVSRAD  
を行うことができます。  
通常診療では  
できませんが、4月か  
らは脳ドックでもV  
SRADを行うことに  
しました（50歳以上  
の人対象）。

4月はキャンペー  
ン期間として脳ドッ  
ク受診者で希望の方  
には無料で追加し  
ます。キャンペーン  
を過ぎると脳ドッ  
クの料金に追加で  
2000円（税別）  
が必要となります。  
この機会に一度脳  
ドックを受けてみて  
下さい。



# 町史編さんだより

第23回 ～『じげの宝』シリーズvol.10～

## 『出雲街道の宿場町として栄えた板井原地区』

「町史編さんだより」の23回目は、政治・行政・教育小委員会が、地域の特徴や活動、行事、祭り、昔話、自慢などを聞き取り、紹介する「じげの宝」をお送りします。



四十曲トンネル入り口付近にある地藏(道標)。「右備中、左上方」と刻まれている

### 後醍醐天皇や参勤交代の殿様が通った峠の村

板井原集落は、山陰と山陽を結ぶ重要路線である国道181号沿いの峠付近にあり、標高は約400<sup>メートル</sup>。静けさに往來の車の音が山にこだまする中で、住民は暮らしています。板井原はその昔、参勤交代(出雲街道)の宿場として栄えました。中国山地(峠)を越えると岡山県新庄村に通じる。「右に備中、左に上方」と刻まれた地藏(道標)が現在の四十曲りトンネル入り口付近に残っており、当時を偲ぶことができます。



四十曲峠は、街道の一番の難所で、殿様の宿泊休憩所の御茶屋や旅館もあり、山間奥地といえども交通の要衝の地としてにぎわったと思われる

す。宿駅ということもあり、特定郵便局も昭和の終りごろまでありました。また、その昔には後鳥羽上皇の隠岐遷流、御醍醐天皇の隠岐遷流の際に板井原を通られたといわれており、後醍醐天皇の侍医で、この地に留った池田将監の弓矢、天皇の後衣片が民家に残されています。

板井原には、立派な板井原神社神殿が建立されており、交通の要衝の地としてのみならず、たたら生産の地として栄えていたことを伺い知ることができます。本殿には、オシドリをはじめ、エビ、カニなどの精巧な彫り物が施されています。また見事なみこしが2基あり、例祭には天狗や獅子とともに集落内を巡行していました。やがて、担ぎ手が少なくなり、軽トラに乗せて回ったことも。現在は、みこしの巡行は行われていませんが、「例祭には、みこしを出したい」との思いも聞かれました。

▲みこしを軽トラに乗せ集落内を巡る(平成5年ごろ)



板井原集落全景(昭和53年)

### 四十曲トンネルが整備され交通事情が一変

参勤交代の往時の建物が残っていた板井原でしたが、昭和25年7月に集落の半数を焼失する災禍に見舞われ、北側にあった板井原小学校も焼失。その際、住民は内井谷に避難しました。「当時は、小学生だったが、現場を見て呆然とした」との話も。また、そのころは魚屋などの行商が、自転車に荷物を積んで新庄方面に通っていたとのこと。四十曲峠は急勾配なので、子どもが自転車の後押しを頼まれたそうです。

その後、昭和28年、四十曲峠が国道181号として指定され、昭和43年に板井原トンネル(1863<sup>メートル</sup>)が完成し、様相が一変。ピーク時は1日2万台の交通量があったとのこと。交通量の増加とともにドライ

ブインも3軒が営業していましたが、高速道路(米子道)が開通すると次第に交通量も減少し、現在は1店だけとなりました。

### 山林など自然を生かして

板井原は、山間地域ということもあり、小学校(昭和34年の児童数45人)が設置されていました。しかし、児童数の減少から昭和53年に廃校に。校舎は取り壊されて集落内に公民館を新築し、コミュニティ活動の拠点が公民館に移りました。昭和35年には、49戸234人が住んでいましたが、平成27年には19戸51人になり過疎化と高齢化が急速に進んでいます。

かつての産業は、林業で炭焼きや造林作業にほとんどの住民が従事。県有林もあり、その木材を売却して鳥取県の第2庁舎建設(財源)に貢献したと聞き伝えられています。千枚田のようだった水田も、平成2年から3年がかりでほぼ整備されました。

「平成29年秋に、獣柵の設置に鳥取大学ボランティアの学生が応援に来ていただき、交流もできありがたかった」「板井原から見える宝仏山の四季折々の風景はきれいだ」「日野町で一番高い山・八郎は、登山の途中に滝もあり開発すれば観光資源になる」と話す人も。自然を生かした村づくりを将来へのメッセージとして送っていました。(松本利秋Ⅱ政治・行政・教育小委員会)